

# 鳥籠の彼女

【11 因幡てる編】



For  
Adult  
Only  
18



巫女が神社の敷地の掃き掃除をしていると、一人の男が訪問してきた。あまり賑わっているとは言いがたい、その神社にとってはありがたい参拝者だ。

「ところで巫女さん、妖怪の動きを封じるために何か良い道具はないかな？」

しばらく世間話を交わした後、男は紅白の出で立ちをした巫女に質問を投げた。

「うーん、御札なんてどうかしら。直接貼れば一発よ。そもそも、妖怪退治なら

私に任せてもらえれば……」

「いや、自分でやりたいんだ」

「怨恨ってやつ？」

「そうそう、そんなものかな。ちなみに、その御札って激しく動く取れたりするかな？

もしくは擦ったりすると効力が切れちゃうとか」

男の質問に小首を傾げる巫女。身動きをとれなくしたら動かすも何もないだろう。

その場で始末すればいい。捕獲するにしてもゆっくり運べば問題はないが……。

「激しく動かすのは良くないわね。何かの拍子に剥がれてしまう可能性がある。擦るのは論外」

「そうか……じゃあ別の手段が必要だな。耐久性がある物って何かないかな」

「そうねえ……私の普段身に着けている物には神性が宿るから効果があるけど」

「そう言ったら巫女はフリルの付いた髪留めを外した。黒く艶やかな髪がさらりと流れる。

髪留めを手のひらに乗せ、男の前に差し出す。

「これを妖怪の体の一部に装着させるのはどうかしら。動いても外れにくいし、耐久性もある」

「ほう、これはいいね。貰ってもいいかな」

男の手が髪留めに触れるか否かのところで巫女は手を引つ込めた。

巫女はにやにやとした表情を浮かべて、親指と人差し指で輪っかを作っている。

つまりは『相応の対価を奇越せ』ということだ。

「わかってるって。これでどうかな」

男の差し出した硬貨の束に巫女は目を丸くさせた。

「こんなに？」

「ああ、いいよ。そのかわりさ、ちょっとお願いなんだけど、この髪留めを妖怪自身が

外せないようにしてほしいんだ。ちょっとあの暗闇の妖怪……あの子みたいな感じでさ」

「気を良くした巫女は、男の要望とおりに特別なまじないを髪留めに施す約束をした。

「ありがとう。今後ともどうぞよろしく」

「こちらこそ。またいらしゃいな」

男は巫女から追加で二種類の札を購入し、神社を後にした。

その手には、妖怪から探知されなくなる札と意識を奪う札が握られていた。

男がにやりと粘着質な笑みを浮かべながら呟く。

「待っててね……てあちゃん……」



てるちゃんが  
僕の部屋で  
無防備に寝てるなんて  
夢みたいだ……

今のうちに  
済ますこと  
済ませちゃおうね

いん

いん

ん……

あれ……ここどこだろう  
視界がぼやけて  
よくわからない  
たしか私……  
竹林を歩いてて……

いん

ん……っ  
なんか下がもぞもぞする……

いん



って！  
なにしてるのあんた！

ドキッ

おや、お早いお目覚めだね  
おはようてるちゃん

挨拶なんていいから  
さっさと離しなさいこの下衆！  
さもないと——！！

なに！？  
なんなのこの状況？！  
私の大切なところ  
勝手に弄って……  
絶対に許さない！

むに

ぐわっ

ぐわっ



んー？  
さもないと、どうなるのかなー？

ガ  
ガ  
ガ  
ガ  
ガ

きゃっ！  
ど、どうして……  
力が……

ガ  
ク  
ガ  
ク

そりゃ僕みたいなただの人間が  
てりゃん腕力で勝つことなんて  
できるわけないよ  
だからさ、少し細工させてもらったんだ

細工……？

そう、君の手首に  
巫女さんから貰った髪留めを  
つけさせてもらったよ  
これで妖怪の動きを封じられるらしい  
どうやら効果てき面だね

ガ  
ン

ああ、ちなみにてりゃんが  
自分の意思で触ろうとすると  
火傷しちゃうから注意してね

ぐう……っ  
あそこを擦られて気持ち悪い……  
こんな下衆男にいいようにされる  
なんて……！！

く  
り  
く  
り  
く  
り  
く  
り



はあはあ  
そろそろいいかな？  
いいよね？

や、やだ……  
やだやだやだやだ  
こんな男となんて……  
こんなやつに……っ！

あ……あ……  
入ってくる……  
中に……こんな……

ああ……  
あつたかくて気持ちいいよ  
膣内がきゆうきゆう締まって  
てゐちゃんも気持ちいいんだね

やだあつ！  
抜いてよ！  
抜いてよお！

まだダメだよ  
始まったばかりなんだからさ  
これからもっと楽しんでいこうね

おっぱい  
おっぱい

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ  
ゴッ





てみちゃんどうしたの？  
そんなに抱きついてきて  
もしかして僕の愛に  
応えてくれるのかな？

そんなわけっ……  
あるわけないじゃない！  
さっさと抜いてよ……  
抜いてよお……！！

抜いてほしいの？  
そうだね  
それじゃ一回抜いてみよっか  
少し激しくなるけど  
てみちゃんが望んだんだから  
我慢してね

爪を立ててるつもりなのに  
傷をつけるどころか  
力が入ってる気配すらない  
お尻掴まれて好き放題されて  
これじゃ逃げられない……！！

えっ?!  
ちよっと、なに?!  
やめて……うそ……  
あああっ!!

はあっはあっ  
とっても良かったよ  
お望みどおり  
てみちゃん  
抜いてあげたんだから  
感謝してほしいな

いや……やだあ……  
こんな……  
ぬいてくれるって  
いったのに……

……!!  
なか……あついのが……  
出てる……出てるよお……



こんなやつに出された……  
このまじや妊娠させられちゃう  
なんとかしなきゃいけない……  
そんなことわかってるのに――

いっばい  
こぼれちゃったね  
てみちゃんの  
小さな身体には少し  
多かったかな？

身体が重くて  
痺れて  
熱くて  
動けない

でも安心してね  
いくらこぼれても  
もともっと  
いっばい注いであげるから



さあもうじゅうぶん  
休めたよね  
続きしよっか

いやあっ!  
離して! 離してよ!  
お願いだからあっ!

だめだよ  
もっといっぱい愛し合おうね  
てみるちゃんが  
気持ちいいって言うってくれるまで  
やめないから

ぐっ……誰があ  
誰が言うか!  
こんなことして  
絶対後悔させてやる……!

おお怖いなあ  
でもそうやって強がってる  
てみるちゃんも可愛いよ

ぜったいに許さないんだから

ぐっ

ぐっ

グッ  
グッ

ガッ

ガッ  
ガッ

グッ  
グッ

グッ  
グッ

グッ  
グッ



てるちゃんとなら  
何十時間でも  
エッチできる気がする

僕たちすごく  
相性がいいのかもしれないね

それにてるちゃんさ  
後ろからの体位になった途端  
締め付けすこいよ  
もしかして後ろからされるのが  
好きなのかな？

頭が変になりそう……  
ひたすら突かれ続けて  
こんなのぜんぜん  
気持ちよくなってるのに

はあはあ  
そろそろもう一回  
出してもいいかな？  
てるちゃんも欲しいよね？

あぐ……っ  
や、やめ……

それなのにどうして……  
出し入れされる度に声か  
抑えられなくなる……っ

ガッ

ふぐっ

ぐっ

ブルブル

ズグズグ  
ドッ ドッ ドッ

グ  
グ  
グ

ド

ド  
ド  
ド



ほら出すよっ  
しっかり受け取って！

ま、また出てる  
出ちゃってる……  
二回も中で……

射精にあわせて  
膣がぎゅうぎゅう  
締め付けてくるのを  
感じるよ

てるちゃんも  
気持ちよくなっ  
てくれているんだね  
とっても嬉しいよ



ズル  
ズル

ゼリ

ズル  
ズル

ゴッ  
ゴッ

ザー  
ザー

ズル



ご褒美にもっともっと可愛がってあげるからね

そろそろ服も邪魔だね  
ほらパンザイして  
そうそう  
てるちゃんは協力的で  
良い子だね

はは……  
まだ締め付けが止まらないや  
よっぽど気持ちよかったのかな？

うそ……  
そんな……  
気持ちよくなんて……  
私……こんな……

でももう足腰がまともに  
動かせない……  
もう私……こいつに……

ハッ

はっ

はっ  
せろろ

トクッ

トクッ

ドクッ

ドクッ

まっ











てみるちゃんの好きな  
後ろからだよ！  
ほら！

いっぱい気持ちよくなって！  
それで僕の子を孕んで！

はげしすぎてもう……  
だめ……かながえも  
まともまらなく……

きつとてみるちゃんの  
幸せを呼ぶ力もあわせれば  
上手くいくよ！

わたし……  
このひとの……  
およめさんに……っ

二人で幸せになろっ！

ドゥン  
ドゥン  
ドゥン

ドゥン  
ドゥン  
ドゥン

ドゥン

おっ  
おっ  
おっ

ズルル  
ズルル  
ズルル

ズルル  
ズルル  
ズルル

セクッ  
セクッ  
セクッ

ドゥン  
ドゥン  
ドゥン

ガン  
ガン  
ガン







# 後書

ここまで読んでいただき誠にありがとうございます。  
サークル・しろくろうさのスギユウです。

今回の本は男が一方的にてみちゃんを愛する本です。  
相手から嫌われようとお構いなしに。  
そういう歪んだ愛をもっと上手く表現できるように  
なれたらなと思います。  
最近はおんなの子を物のように扱う感じで描いていたので、  
たまにはこういうのもいいですね。  
あ、もちろん物のように扱う作品も大好物です。

漫画とイラストのあいこのこのような形式になった今回の本。  
私としてはどうにも漫画のコマ割りに馴染めず、  
このような形での新刊となりました。  
イラストのように、1ページの中に居るキャラをしっかりと  
塗り込んで描いていくスタイルが私には合っているようです。  
楽しかった(\*´▽`\*)

ショートストーリーのような地の文を本文中に突っ込み  
たかったのですが、どうにも縦長のレイアウトと合わない  
ですね。  
横長サイズでSS付きCG集とか出したいなあ……。

今回は長野で開かれる諏訪風神祭(9/28)に参加します。  
たぶんフルカラーのケロちゃん陵辱本！  
もし来場される際はよろしくどうぞ！

# 奥付

原作：上海アリス幻楽団 様  
印刷：プリントネット 様

発行：しろくろうさ  
責任：スギユウ  
発行日：2014/08/16

連絡先：yuu\_819\_as@hotmail.com  
ブログ：<http://shirokurousa.blog.fc2.com/>  
twitter：sugiyuu  
pixivID：97799





Toho Project Fanbook  
『鳥籠の彼女01 因幡てみ編』  
2014/しろくろうき